

現在、18カ国の学習者と交流しています。

市岡国際教育協会・日本語教室は、大阪府立市岡定時制高校の閉鎖を受けて、働きながら学ぶ「定時制の灯」を消したくないと定時制高校の同窓会が中心となり1996年5月にスタートしました。市岡国際教育協会は、同窓会(市岡高校定時制同窓会)に母校の廃校後も、引き続き支援してまいります。

Ichioka

2003/1
No.22

発行人/市岡国際教育協会理事長 八木正一(編集/広報係)
大阪府市岡区市岡二丁目2-1 TEL:06-6682-0348

特定非営利活動法人
市岡国際教育協会 日本語教室
●場所 大阪府立市岡高校内
●日時 金曜日午後7時から約2時間
●ボランティア参加費
入会金 1,000円
年会費 1,000円
●学習者は無料

二期オポニングクラス報告

是川 梓葉

十二月十三日の二期最後の授業は、恒例のオポニングクラスです。今朝は、今期から近距離になったので、他の班の人とも仲良く出来るようにと、各名刺交換をしました。一人九枚づつ名刺を持ち、十分間で好きな人と交換を繰り返します。知らない人と交換をするのは恥ずかしいのか、同じ班内で交換してしまっている人達もいました。ワイワイと皆さん楽しんでいました。交換が終わると、その九枚の名刺を三枚×三枚で好きな人と並べてもらい、その紙を利用して名刺ビュウゴをしました。こちらでランダムに指名された人に名前を言ってもらい、自分が交換した名刺にその人の名前があれば○をつけます。賑やかな声のいずれかに○が並べばビュウゴです。ビュウゴになった人には好きな景品を一つ選んで持って帰ってもらいました。参加人数が多かったため多少時間はかかりましたが、リピーターになってからのドキドキ感があり、楽しんでくれたのではと思います。

次に、チーズケーキと飲み物でおしゃべりタイム。食べ物があると気持ちも軽くなるように、おしゃべりも弾んでいました。ビュウゴからずっとこの間も、市岡ハイモニーバンドが演奏を続けてくれ、素敵な演出が出来ました。ありがとうございました。

最後に、その「市岡ハイモニーバンド」の演奏で、「お正月」を合唱しました。何度も練習し返したことで、学習者さんにも覚えてもらえたので、市岡を卒業してから、お正月になるたびに思い出して欲しいものですね。こんな感じで今回のオポニングクラスは終了しました。次回はどんなことをしたいのいになりました。少しでも考えたあなた！イベントはみんなで作っていきましょう。一緒に楽しいイベントを作りましょう。遠慮せずに、ミーティングに参加して下さい。お待ちしております☆

☆HELLO ICHIOKA!!☆

～あいさつ編～ 第三回：ポルトガル語

このコーナーでは、学習者の母国語をみなさんに知ってもらい交流を深めることを目的としています。世界各国の言葉を少しでも話せると、交流の輪は広がります。

まずは、簡単なあいさつから交流をはじめてみませんか？
第三回は、ポルトガル語です。ポルトガル語はブラジル、ポルトガルをはじめアンゴラ、モザンビークといったアフリカ諸国でも公用語になっている言語です。

前回紹介したスペイン語と似ていますが、発音もブラジルとポルトガルで微妙に違いがあります。今回はブラジル発音で紹介いたします。ポルトガル語はローマ字読みで比較的発音しやすい言語なので、ぜひチャレンジしてみてください。

Bon dia. (ボン ジア)	おはよう。
Boa tarde. (ボア タルジ)	こんにちは。
Boa noite. (ボア ノイチ)	こんばんは。
Obrigado. (オブリガード)	ありがとう。
De nada. (ジ ナーダ)	どういたしまして。
Olá. ★ (オラ)	こんにちは。
Tchau. ★ (チャオ)	さようなら。

★…友達同士の会話で使われる。

さて、いかがでしたか？
これからは、各国の言葉を少しずつ紹介していきます。
また、何かいいアイデアがあればご提供ください。
みなさんと一緒に楽しい紙面を作っていけることを願っています。

会員ボランティア：川原知子

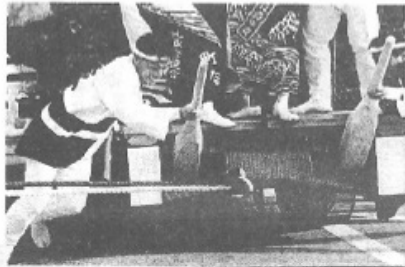
日本語ボランティア養成・研修講座のお知らせ

- 第1回 2月14日 「日本語ボランティアとして人と関わること」
講師 西口 光一さん(大阪大学留学生センター教授)
- 第2回 2月21日 「国語の先生から日本語の先生へ」
講師 古川 正園さん(淀川工業高校教諭)
- 第3回 2月28日 「人の日常生活と水道」
講師 八木 正一さん(市岡国際教育協会理事長・理学博士)
- 第4回 3月7日 「ボランティア実利に尽きる日本語習得支援」
講師 笠 眞知子さん(国際交流クラブ KoKoC 代表)
- 第5回 3月11日 「日本と私」
講師 オスティ ウェイドさん(HAND IN HAND ORGANIZATION フィリピン代表)

ボランティアリレーエッセイ第10回

今ひとつ残る私の消え去らざる静かに燃える炎

いつもお世話になっております。第三班 班長 松原英夫でございます。
岸和田に生を寄せて住まい致しております自分にとり地車(ダンジリ)祭は不可分のものであり地車が動く時その地車の何処かを持っていないと生きて行けない人間です。梶子持ちを志願し若頭に入会を許され10年の長きに亘り務めさせて頂きました。
まさにわたしの地車人生に於けるドリームズカムトゥルーでした。



注：前梶子 地車進行方向正面お立ち台下に差しある一対の木でできた棒
方向転換時内側になる片方の梶子がプレーキの役目をする。
あの地車が動くとき、たった二人だけが持つ、

昨年が(平成14年度)若頭を卒業し最上部団体の世話人へ上がって初めての祭でした。
もう地車のどこきも持つことなく九月拾四日、拾五日を過ごしました。

前梶子は後進に道を譲り新たな世話人としての責任分担がはじまったのではあるが賞味期限切れの地車曳きになってしまったようで、そう、きっと腐った魚のような眼をして日々日々を生きていっているだけになってしまったのか、ふと、そんなとき今ひとつ残るわたしの消え去らざる静かに燃える炎がありました。種火のように小さくけれど。

平成14年度より班分け制が導入され、班長さんを中心に熱心な学習が続いています。このコーナーでは、日頃奮闘されている9人の班長さんのさまざまな思いをリレー形式で綴って行きます。
今回は3班長松原さんです

それはこの地球上に数多ある言葉すべてを自分のものとし、理解し多くの人々と分かち合うという夢でした、そしてその夢はジョンレノンのイマジンのような世界へ結びつく
この市岡国際交流協会こそがまさにその場なのでした。
(しかし形あるもの全て崩れ去る、動植物に永遠の生命なく、この世に生きてそれを見ることなく死んでいく、それでも地球は回っている)
班長を仰せつかり、いままでのようにマンツーマンにての学習者とのかわりばは少なくなりましたが、組織や運営について学ばせてもらっています。いつか地元の岸和田でも国際交流をやっていくつもりです、この市岡国際交流協会で学ばせていただいたことを基として

最後にボランティアの皆様並びに学習者の皆様にお問い合わせがあります。インターネットで<http://sensyu.net/k>(携帯電話可)にアクセスしてくださりませんか、私も並松町(ナンマツ)の地車、彫り物の写真、動画、が現れ祭囃子が聴けます、皆様方に見て、聴いていただき、知ってもらおう これこそが多文化共生、異文化共生のはじまりなのです、地車曳きのボランティアとしての、私がここでしない誰がどこでするのでしょうか。

(いつでもどこでもやっています) 笑い

3学期は、2月7日までです。
(学習者には、担当ボランティアが伝えてください)

平成15年度も継続を希望されるボランティアの方は、ボランティア研修会及び3月28日のボランティア登録会・説明会・ミーティングに参加ください。